

平成17年度 プロジェクト研究評価報告

<p>プロジェクト研究課題名</p>	<p>食料供給における安全安心の確立ニーズがもたらすフードシステム及び貿易構造の変化の解明</p>
<p>研究実施期間</p>	<p>平成17年度～19年度</p>
<p>プロジェクト研究の概要</p>	<p>安全・安心な食料供給のための措置の費用便益評価に関して、欧米諸国の実態を分析し、日本型の費用便益評価システムを構築する。食料の安全確保のための輸入禁止等が世界の貿易構造及び国内のフードシステムに与える影響を、定量的に分析する。フードシステム構成主体の食の安全・安心に関する意識、リスク認知及びリスク管理の実態を分析する。</p>
<p>評価結果</p> <p>○評価会議名及び開催日 農林水産政策研究所 評価委員会 平成18年2月13日</p> <p>○評価委員名 吉川泰弘 (東京大学大学院教授) 大賀圭治 (日本大学教授) 中嶋康博 (東京大学大学院助教 授)</p> <p>○評価基準 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い (効率性のみ A：妥当 B：概ね妥当 C：見直し が必要 D：妥当でない)</p> <p>○総合評価基準 1. 順調に進行しており、 問題はない 2. ほぼ順調であるが、 改善の余地がある 3. 計画等を変更する必要 がある 4. 中止すべきである</p>	<p>【課題1】</p> <p>【評価項目ごとの評価】()は3名の評価委員の投票数を示す。</p> <p><必要性> ○政策の企画・立案への貢献 A評価(1)、B評価(1)、D評価(1) ○社会的ニーズへの対応 A評価(2)、D評価(1)</p> <p><効率性> ○研究計画の妥当性 B評価(2)、C評価(1) ○研究資源・実施体制の妥当性 B評価(1)、C評価(2)</p> <p><有効性> ○研究目標の達成度・達成可能性 B評価(1)、C評価(2) ○研究成果の実績 B評価(1)、C評価(1)、D評価(1)</p> <p>【総合評価】 2. ほぼ順調であるが、改善の余地がある(2) 3. 計画等を変更する必要がある(1)</p> <p>【評価委員からの主な意見】</p> <p>○ 疾患の費用に関するdataは、食中毒の届出以外に感染症情報のdataを利用することが必要。 治療費と死亡率以外にも就業規制、後遺症等の社会的損失疾病の特性を数値化する必要があるのでは？ リスク回避のためにとられた対策とそのコストをdata化する方策が明瞭でない(これが実際にはむずかしいのでは？) 費用便益が明らかになった場合でも、それが消費者が受け入れるリスクレベルと一致しない場合の対応をどうすべきか？</p> <p>○ 我が国でも患者に関する統計が入手可能であり、アメリカ同様のC O Iの計測を試みるべきであろう。政策、社会的ニーズの高い研究でありながら、費用便益分析の試みは少なく、本年度の成果を踏まえ、次年度にさらに成果が出されることが期待される。</p> <p>○ 海外の研究をサーベイして研究を進める道筋はついたと思われるが、これまでのわが国における食中毒関係の疫学的研究成果を正しく確認する必要があるであろう。そのために外部からの専門的なアドバイスを受けるべきである。</p> <p>【課題2】</p> <p>【評価項目ごとの評価】</p>

<必要性>

- 政策の企画・立案への貢献 A評価(2)、B評価(1)
- 社会的ニーズへの対応 A評価(1)、B評価(1)、C評価(1)

<効率性>

- 研究計画の妥当性 A評価(1)、B評価(2)
- 研究資源・実施体制の妥当性 A評価(2)、B評価(1)

<有効性>

- 研究目標の達成度・達成可能性
A評価(1)、B評価(1)、C評価(1)
- 研究成果の実績 B評価(3)

【総合評価】

1. 順調に進行しており、問題はない(1)
2. ほぼ順調であるが、改善の余地がある(2)

【評価委員からの主な意見】

- 輸入禁止措置による①流通量の減少、価格の上昇、②輸入ニーズの変換による代替ニーズの発生と価格の変動、③禁止に基づく生産量のダブつきと生産量の減少→価格上昇etc、要因の複雑性と時系列変化を考えるとモデル化はむずかしい気がする。貿易構造の変化モデルをいかにつくるかが問題。
- 研究計画に従って研究が順調に進んでいるように見えるが、AGLINK、GTAPモデルの単純な適用にとどまっており、より創造性のある研究とするためには、これらモデルについて少なくとも日本のモジュールについての改良、アップデートが必要である。
- 初年度の研究としては順調な研究成果が得られている。モデルの構造については、国内の牛肉部門を「和牛」と「その他国産牛」とに分割できないかどうかについて検討が望まれる。「その他国産牛」は輸入牛肉と競合していることから、価格シミュレーションが国産牛を区別してよりきめ細かく行えるならば政策へのインプリケーションは大きいと思われる。

【課題3】

【評価項目ごとの評価】

<必要性>

- 政策の企画・立案への貢献 A評価(3)
- 社会的ニーズへの対応 A評価(3)

<効率性>

- 研究計画の妥当性 A評価(2)、B評価(1)
- 研究資源・実施体制の妥当性
A評価(1)、B評価(1)、C評価(1)

<有効性>

- 研究目標の達成度・達成可能性 A評価(3)
- 研究成果の実績 B評価(2)、C評価(1)

【総合評価】

1. 順調に進行しており、問題はない(2)
2. ほぼ順調であるが、改善の余地がある(1)

【評価委員からの主な意見】

	<p>○ 心理評価の分析方法は興味深い。今後、①行政、リスク評価者を対象に分析を進めていただきたい。②また、野菜以外に肉類、穀類について立場による違い、対象による違いがあるか明らかにしてもらいたい。(3年間で)そして第2期には、差異を埋めるための戦略を展開してほしい。</p> <p>トレーサビリティ研究については、牛肉のトレーサビリティの有効性を検証するためのプログラムの作成、プログラムに基づく実証検分、問題の指摘といったプロジェクトにも挑戦してもらいたい。</p> <p>○ フードシステムに関する社会心理学的分析は、少なくとも評者にはきわめて斬新で興味あるものである。アンケート調査とその結果の分析も手堅く、着実に研究が進められている。外部からの専門家と協力した研究実施体制もうまく機能していると判断される。研究成果の説明では、この面での専門的知識のない者にもわかるようなものにする努力が望まれる。</p> <p>○ 初年度の研究としては順調である。ただし本研究に含まれる3分野の研究課題は、それぞれ独立した小課題研究として進めることもできるように思われる。研究上の相互の連関を再度検討されたい。</p>
<p>今後の対応方針</p>	<p>(評価結果を踏まえた対応方針について記述)</p> <p>【課題1】</p> <p>指摘にもとづき、疫学専門家の助言を得るとともに、感染症データを分析するように計画を修正し、わが国の食の安全に関する費用便益分析を進め、成果をまとめる。</p> <p>【課題2】</p> <p>貿易構造については、データの入手可能性の制約等を念頭におきながら、モデルの構造をより現実適応的なものにできないか、検討する。</p> <p>【課題3】</p> <p>フードシステムの安全・安心確保についての実態分析において、各主体の心理分析、トレーサビリティ、リスク管理に関する各研究の連携を強化する。</p>